

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	1	施策名	地域福祉の推進		
小施策コード	1-3	小施策名	地域福祉を担うひとづくり		
小施策 主管課等コード	061500	小施策 主管課等名	地域福祉課		
評価責任者名	藤澤 多津子		内線番号	2520	
評価シート作成者名	熊谷 修二		内線番号	2521	

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート調査「福祉サービスが適切に受けられる」と答えた市民の割合	↑	%	—	23.0	33.4	26.4	30.0
まちづくり評価アンケート調査「地域で支え合いが進んでいる」と答えた市民の割合	↑	%	—	24.0	26.3	31.7	34.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていることを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

対象 (誰 (何) を対象として行うのか)	意図 (対象をどのようにしたいのか)
市民, 地域	仕組みと地域環境をつくり, 支える人材が養成される。
現状と課題	支援を必要とする個人や家族に対する個別支援だけでなく, 専門職や関係機関, 団体, 住民などが連携しながら, 生活環境の整備や住民の組織化などの地域支援活動を総合的に推進していくことが求められている。
取組の方向性	支援を必要とする人が適切なサービスを受けられるために, また, 住み慣れた地域で, 誰もが地域の一員として尊重され, 自立した生活を送ることができるよう, お互いに支えあうことができる地域福祉を担うひとづくりを推進する。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
ボランティア登録者数(個人)	↑	人	11,607	11,100	12,686	12,000	12,500
ボランティア登録者数(団体)	↑	団体	131	119	122	135	140

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

Step 4 市民ニーズの把握

地域福祉計画アンケートや地域福祉ワークショップから、地域福祉活動の中心的な担い手の高齢化や活動に参加する人の減少により地域活動の停滞が懸念される。

一方で、地域福祉計画アンケートによれば、「活動内容によっては地域活動に参加していい」と回答する人の割合も一定程度あることが推測される。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率(%)
各主体の 役割の状況	市	地域福祉の担い手を育成する機会や、地域福祉活動に対する理解を深める機会を提供する。	30
	国・県・ 他自治体	地域福祉の担い手を育成や地域福祉に対する理解を深める機会のほか、地域福祉活動に対する理解を深める機会の創出の支援を行う。	20
	市民・ NPO	地域福祉を推進するための講座や、地域福祉活動に対する理解を深める。	30
	企業・ その他	企業の社会貢献として、地域福祉活動の支援を行うほか、従業員の地域活動への参加に対する理解を深める。	20

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
 - 現状維持(現在の市の役割の比重を維持する)
 - 市の役割の比重を縮小していくことを検討する
- (理由)

各主体の役割の状況は、現時点で最適な比重であると考えられるため。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

人材育成に関する取組を継続的に実施するとともに、見守り協定などを締結している企業を中心に、地域福祉活動への参加を促す取組を推進する。

2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
人材育成に関する取組を継続的に実施する	福祉の専門職を対象に、広くまちづくりの観点から地域福祉を推進するため、県外からまちづくりの専門家を招聘して、実践的な人材育成のためのセミナーを開催した。	A
地域福祉活動への参加を促す取組を推進する	地域福祉計画における基本理念である共生社会の理解を一般に浸透させるため、フォーラムを開催した。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 地域における福祉活動を牽引する中核的な担い手として期待される多くの福祉の専門職員が人材養成講座に参加した。
- ・ 多くの市民等が共生市民社会に関するフォーラムに参加した。

(2) 成果をあげた要因

地域福祉の中核的な担い手の層や、興味関心が薄い層に対し、フォーラムや講座の内容に変化をつけたことによるものと考えられる。

(3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

- ・ 地域福祉活動への参加や興味関心を高めるため、継続的に人材育成に取り組む必要がある。
- ・ 企業の地域福祉活動の参加を促進することで、担い手の範囲を拡大していく必要がある。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

- ・ 地域福祉計画アンケートや地域福祉ワークショップから、地域福祉活動の中心的な担い手の高齢化や活動に参加する人の減少により地域活動の停滞が懸念される。
- ・ 一方で、地域福祉計画アンケートによれば、「活動内容によっては地域活動に参加している」、「声がけなどの日常生活の支え合いに活動に協力することができる」と回答した人が一定程度あるが、実際の活動につながっていないケースが多くあると考えられる。

(2) 現状の問題点が生じている原因

近所付き合いや地域活動に参加する人が少なくなっていることなどから、地域住民同士の日常的なつながりの希薄化が進んだことにより、地域活動に参加したい人や、日常生活の支援への協力ができる人が、そのきっかけを得ることが困難になっていることが考えられる。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

地域福祉の担い手として、活動するための障壁になっていることを把握しながら、町内会や地区福祉推進会などの小地域レベルでニーズのマッチングを行うことができる仕組みを構築する必要がある。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

共生社会の理念の実現を図るため、今後の盛岡の未来の担い手としての高校生や大学生の若者も視野に入れた地域課題に関わる実践的なプログラムを実施して、若者の愛郷心を育む場を創りながら、地域福祉活動の活性化と担い手の育成を図る。